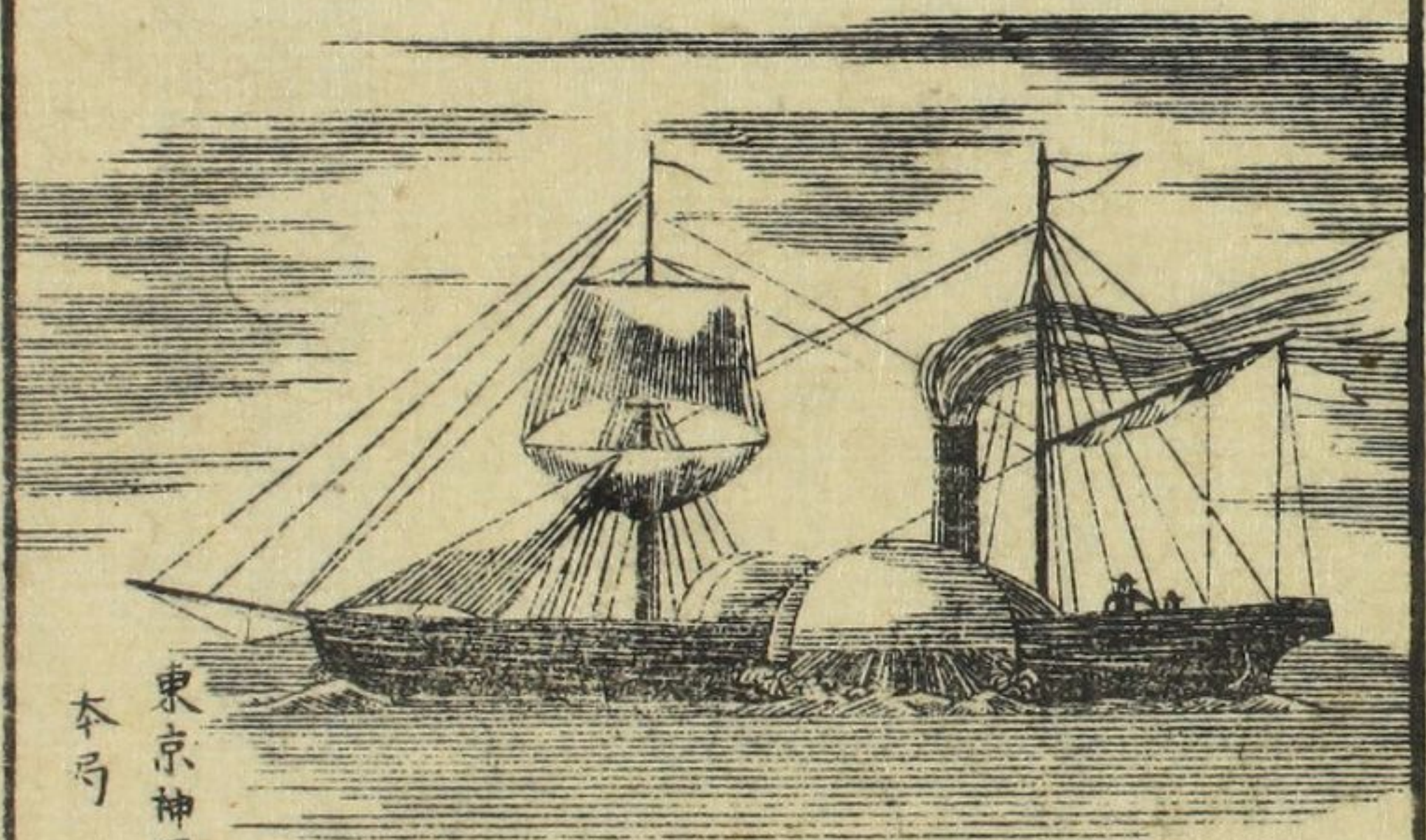


18
56
25

海外 翻譯新聞誌 各國

許官



東京神田區山町十五番地
本弓 信報堂

第六號

定價銀二匁五分

全三卷
第一卷
第二卷
第三卷

大正
神田區
山町十五番地
信報堂



18
56
25

56
2

内言

外国の新事多端にして日本に無用の事も有り故に多くの中より
所要の事とて之を亜米加人ウエリド英吉利人ウヰルムスの撰とて我國
行川一男翻譯せしむ細小同以度人本局へ来り給へ

毎月廿板 日曜日

定價一冊

但一紙数に限りられば廿板の度一冊に限り文章の
少より二号或ハ三号も同時廿板に
銀二匁五分 当時發行より先き前金と以て引受の向ハ

二十部 銀四十五匁
三十部 同六十三匁
五十部 同百匁

海外各国翻譯新聞紙第六号

三月四日發行




西曆一千八百七十二年十二月二日(ロンドン)の新沙紙中
に(オーストリア)の(ヴィーナ)地にて開きたる博覽會の
品物の種類を區別し順序を記せしむ云

○(オーストリア)の(ヴィーナ)にて千八百七十三年二月一日
より開く處の博覽會ニヤる品物を其種類より後て之を區別
てり第一ハ諸鑛物及び諸石類第二ハ耕作の道具草木或ハ
木實類第三ハ化学の諸器及び諸製造物等第四ハ食物類第
五ハ諸織物及衣服物類第六ハ(ゴム)にて作りたる物第七ハ金

各飛澤千用氏

道具類第八ハ木にて造りたる諸道具第九ハ瀬戸物類
 第十ハ小道具及び小兒の遊び道具第十一ハ紙類第十二
 ハ押繪彫刻寫真の類第十三ハ諸器械第十四ハ理学家外医
 家の諸道具及び時計類第十五ハ音楽の諸道具第十六ハ刀
 劍及び戦争の諸器第十七ハ舟具及び航海の諸道具第十八ハ
 家屋を建てる諸道具及び諸種の家具類右の外より来る六
 月と十二月の種々の家畜類を聚り(ヴネーリンナ)近辺の郊野
 に於て之を使用觀せしむと云

同年十二月  (サンフランシスコ) 新報紙中より(イタリヤ)
 国人より(アメリカ人)を送りたる書狀の寫しと云

○當時(イタリヤ)より合衆國へ移住する者非常之多分ふる
 が故に(アメリカ)合衆國議事院より何等の事件もて此の如
 く多人數本國を捨我國へ轉居せるものあるや此所以を同
 人為の使節(イタリヤ)國へ到着せしむと云

同年十二月二十日(サンフランシスコ)新報紙中より(イタリヤ)を
 截る法を記せしむと云

○樟腦(テレビニ)油を溶いて之を小刀或ハ錐等より
 以て玻璃を截り或ハ玻璃の穴を穿つる甚だ容易く志て更
 り難きと云ふ又玻璃にて製する器什若し其縁粗穢ふれ
 ば此樟腦を溶いたる(テレビニ)油を以て金具を潤し其縁を

摩擦まれば乍ち滑あ澤らとふり或ひハ平らかる玻は璃り板を截る。小こ刀を此こ油の内に入れ置て後ち截る時ハ種々の形ちを截りふまと隨意あるべし故に破碎け易き玻は璃も此こ油を用て截る時ハ恰も黄銅と取扱ふ如くと志て破碎ける患ひを免るべしと云

同し新し少紙中に生命を害する新し法を記せしと云

○近ち来る医学大に進歩て驚快べき新発明多し特にパリス地於て学頭某氏空気を動物の眼中に吹き込み以て之を死斃せしむる法と発明せしとを大学校に書送れり爰に於てアルフオルランと名を試験しが実に其説の如く動物乍ち

死斃を而して此法の不思義かるハ其死せし動物の体中を解き見る更に一點の損傷ハ部分に此法ハ動物及び人間共に用ゆべきを以て奸悪の人之を知る時ハ竊に善良の人を殺害するの恐れあるを以て故に政府より号令として此法を記せし者を秘せしむと云

同し新し少紙中に室内の空気を交代せしむべきとを記せ

○不よ浄ふる空気を呼吸へバ三十歳以後に至心臟の病を起す其例少ふり然るに世人之を知る者少ふく密閉して房室の内にて職業を勤り更に室内の空気を以て交代流

通せしむるより炭酸えんさんをふくむ時腹中より次弟あつち多くふり
 逐しんる身体しんたいに害がいあり至る今日世人せにん生計せいけいの為ために空気流通
 の宜よろしうらぶる室内しやうないに在て種々の職しやくを勤こむるハ止やむを得
 され共之ともが為ために性命せいめいを損こむるハ実まじに憐あはれと悲かなしむべきと
 ふれば之を避よくするの法ほうを作つくらるべうら其法そのほう取とて難たま
 非ちが只室内しやうないに兩個の空気流通くわいりゆうつうすべき道路どうぢを作り一個の道
 より戸外こにある清浄せいじやう新鮮しんせんなる空気くわいを入いらるる又一個の道
 より室内しやうないにて一旦呼吸くわいひて炭酸えんさんを混まじり或あるハ種々の不浄
 を雜まゆる空気くわいを去おちるべしと云
 同年十一月二日(ロンドン)の新報紙中(ウイーン)十一地ちの

事と記せしむる云

○(ウイーン)府ふに住すむる人ひと年々蕃殖ふんじやく其父別帳ふちべつぢやうを檢しらむ
 今年の如ごときハ九十万きゅうじゅうまん千人餘せんにんあまりて一昨年いっさくねんの人別帳ひとべつぢやうに較くら
 れバ十二万人じふにまんにんを増ませり当今いま人ひとの數かずを以もて云いふとさハ
 (ウイーン)ハ西洋せいやうに於て第三位だいさんゐの都府とふとされり縱然じゆうぜん家屋かゑ
 (ベルリン)の都府とふよりも少すくふと云いふも人ひとハ(ベルリン)
 一いちニよりも多おほきを殆たいていんど八万人はちまんにんあり而しかして(ベルリン)の
 大賈おほやハ三個の蔵くらを所持しよぢすると云いふも土屋どゑに住すむ者もの少すくふり
 らる又(ウイーン)に於てハ四個以上の蔵くらを持もつもの多おほく且
 土屋どゑに住すむ人ひと少すくふと云いふ

同年十二月二十七日(サンフランシスコ新報紙中)沙の
龍巻を記せし云

○一千八百七十二年十二月十二日(ビルヂアニ地の近き沙
漠九を二十二里許の地)於て細き沙の颶風を吹巻りれ
午後二時より三時迄六個の砂柱空中に現はれたり此六個
の砂柱何れも回轉風を從て進行し中十(フー)ト高さ千(フー)
トありて恰も堅硬き柱に似たり三時の末に至り此柱の上
部強き颶風の為り折り碎られ細沙散乱して一面の雲の如
カルソニ山を連きたる山脉と覆ひ隠れしに至り其時二個の
沙柱相觸れて爆声雷の如く兩柱乍ち消滅しと云

同年十二月二十日(サンフランシスコ新報紙中)云

○(チエースペイツク)地港より出る牡蠣の色近來綠色と
りて之を買ふ者大に減少せり(パリス)の人民、綠色の牡蠣
と貴重びて其價ひ白色の牡蠣より二倍を而して牡蠣の殖つ
る人ハ池水と綠色をふちて牡蠣を採りせんときるに至る
然れども(アノ)リカ人ハ綠色を喜ぶ者更ふと云
同ト新報紙中(アンチモニー)名菜のやる山を記せし云
○(サンエメジ)カニヨニ地の近辺にて(ウエスト)人の
所持する山ハ非常大なる(アンチモニー)の脈ありて礦石
中より一百毎に七十五より八十位の(アンチモニー)を得べ

一而して其内より多く銀を含まり此礦石ハ推碎く甚ど
 容易きのみからば此地に於てハ新夥志くして製造する
 誠々好き地あり依て鉄道を連続せし製造品を直ちに運
 送せり此地の(ア)ニ千モニ脈ハ巨大なるを掘り盡さべ
 らざる者と雖ども(ユ)ーロツバに於てハ処々より之を生
 産するを以て商賈の爲ハ大益ある者あらば此(ア)ニ千モニ
 しハ白き銀の如くして或て破碎け易く薄き板を合せたる
 如くして或て其碎片ハ結晶の形をなすを或る匠家の能く採用
 者あり銅錫鉛等と混合する時ハ種々日用の金属とあ
 と混合する時ハ一種の金属とありて諸金中最も引延び

べき性を現はすと云

同年十二月二十七日(サン)フランシスコ新報紙中驚く
 べき珍石を記せしと云

○(カリホルニア)地の(セル)ランバダ山に住する(スト)ワルト
 氏世間稀有の珍石を所持せり此石ハ一個の寶石と志て
 高價の者たるを疑ひか(スト)ワルト氏職業の元金を得ん為
 他入る之を示し或いは五十(ドル)或いは五百(ドル)に
 買んと欲する者あり共肯て賣らざると云此石形甚奇
 たる位石あり顕微鏡と以て之を見る時ハ恰も北光の如

各記筆行用氏

光線を散りて金或いは銀の點を現はして突目と驚き、セントワルト氏之をサンフランシスコの石工某氏に送りて彫琢せんと為せしむり、石質殊の外堅硬して一點の疵も付け難はばと云

一千八百七十三年一月三日 日本明治六年 一月三日 (サンフランシスコ) 新少紙中よりイタリア人本国を退轉するを記せしむ

○近來(イタリア)の国民多人教憐れむべき状態にて本国を去り(ニューヨーク)地の港に到着せしむより種々の風説あり、去り(ニューヨーク)地の港に到着せしむより種々の風説あり

ニエ氏右流浪せしイタリア人の乗組する船同船にて精しく其状態を或人の話せしむ、数多の(イタリア)人本国を去り、去り(イタリア)より盛んに殖民する(ブエノスアイルス)嶋に赴きんと志す(エーロッパ)の船に乗組しが其船頭巧みに誑りて此人民を(ナブル)内の地名及び其他の地にて上陸せしむ、直ちに帆せしむ、此人民等元より企てたる目的とハ大に相違するを以て望みを失ふひしむより遂に(ニューヨーク)の迷惑とされり、右(ナブル)及び(カラブリア)地の海岸に捨置られ、教千人更に支給の目的もあきまよりて(ニューヨーク)に送りられ、其時尖りたる帽子染たる(シヤケ

各島屋下月氏

ツ上 西洋の小さな 筋を引たる 莫大小の 股引を着いて (イタ
 リア南都) ちる 悪棍に 似たる 凡体の 者ありし 遂に 疑
 ひと 受け或ひハ 放逐人 或ひハ 盜賊 或ひハ 人殺し ちどと 悪
 評を けり ちガ 此人民 等ハ 只悪棍の 為に 誣うられし 正
 直清貧の 者にて 憐れむ べき 不幸を 経て 生計を 営む 為に 本
 国を 退ぞく 過ぎ 其航海 中舟子 より 殘刻に 取扱はれ 些
 細の 事でも 打擲し 蹴倒され (ニユーヨーク) 着岸せり
 近々 五人 死去せし 其内 一人ハ 舟子の 殘刻に 打擲し 身体
 処々 紫色と ちり 膿汁と 流し 目も 当られ ぬ 状態の 者ありと
 云此の 如く 多人数 本國を 去る 所以ハ 近年 (イタリ) 國難

打継ぐの ちから げ 地震 洪水 大風 等の 天災 頻りに 降ると 以
 て かり 此人民 大抵ハ 手業と 為る 者ある 合衆國の 國語 國
 凡を 知らざる と 以て 活計の 道を 得難く 当分 日雇と ちりて
 (ニユーヨーク) の 街衢 中の 掃除 ちりて 各生活 を 営むりと 云
 同ト 新す 紙中 (ニユーゼーランド) 北ユーロツ まで 製する
 毛織物 と 印土マ 運輸 ぶ 事と 記せし 云
 ○ (ニユーゼーランド) 住する 一群の 殖民 毛織物 を 製造する
 と 以て 充分 利益を 得るの ちから げ 尚之を (インド) 運輸 ぶ
 ち 由て 多分の 利益を 得たり 此地に 於て 毛織物 を 製造する
 と 僅々 一年 以來 ちりて 特に 其製する 処 限り ありと 云

ども其品精好^{イギリス}して英國及び三ユツリスウエルス^{名地}にて
 製する者^イ異^イふらば此品を^{インド}運^輸ぶハ三ユゼーラ
 ンド^イに於て毛織物を製する職人の為^ハ甚^ク大切なる事
 ありて此品物を賣買する^ハ只自^國の^ニて飽^キ足^ラば故
 之^ト（インド）及び支那^ノ運^輸一^以て終^古破^壊する利益の
 基礎^トを立んと欲^シ其事を支配^スべき人と撰^挙んと勤^メ
 たり此の如くふそとさハ（インド）人支那人等之と珍重^シて
 互^ニひ有益^{ナル}高法を用^クの根元とふると疑^ハふ
 同^ト新^ノ紙中^ニ合^衆国内^{（ユタ）}名^國の^{（リツトル）}コツト^ンウ
 一^ド町^ヲ於て降^生せ^シ雪^崩の事^ト記^せ一^ニ云

○去年十二月二十六日午後第二字頃^{（リツトル）}コツト^ンウ
 一^ド町^ヲ於て降^生せ^シ雪^崩ハ実^ニ恐^ろ怖^ろ堪^えず其雪の塊^{（塊）}
 三百^{（フ）}ト深^サ十二^{（フ）}ト餘^リありて此町を通行せる馬
 車を壓^シり車道を過^ギ此近^辺あり入^海を横^ギり^{（ハ）}此
 為^リ數^個の車と破^損り或^ハ埋^没られ或^ハ挫^傷られ
 たり此の如き形勢^{（形勢）}あるを以て車の破^損り^{（破損）}と^{（ハ）}假^令數^百人
 器械^{（器械）}を以て之を止^ムんとふそと虽^{トモ}決^シてこれを止^ム
 る能^ハざるべし右損^傷れ^{（車）}あり^{（人）}名^ハ擧^げて知^ル
 能^ハば其内^{（八）}人の螺旋^{（螺旋）}使^{（ハ）}車^{（中）}より投^げられ四肢^{（四肢）}
 を損^{（傷）}り其他^{（或）}ハ死^{（一）}或^{（ハ）}疵^{（を）}蒙^{（む）}るもの數^{（を）}知^{（ら）}ば

と云

○当令(ロシアとイギリスとの際)の由縁(或る)や戦争(或る)ありて既(既に)印土(印度)に於て(於て)双方(双方)より兵隊(兵隊)を操(操)り
 せし(その)傳信(傳信)を英人(英人)ウイール(ウイール)ムス(ムス)得(得)たりト云(云)尚(尚)確(確)説(説)と
 得(得)て後(後)篇(篇)に述(述)ぶ

18
56
25

明治六年四月

新貨三錢

郵便
報知新聞
第卅六號



東京横山町三丁目

太田金右衛門